

日交研シリーズ A-773

平成 30 年度自主研究プロジェクト

「新興国・途上国の都市公共交通の計画論に関する研究」

刊行：2020 年 3 月

新興国・途上国の都市公共交通の計画論に関する研究

A study on planning theory for urban public transportation in developing countries

主査：中村 文彦（横浜国立大学）

Fumihiko Nakamura

要 旨

途上国の公共交通に関するケーススタディの中から、タイのコンケン、中国の昆明、モザンビークのマプトをとりあげた。コンケンについては、中心市街地の街路空間の課題を整理した上で、現地の主要公共交通機関であるミニバス（ソンテオ）の停留所および街路空間の場の機能にかかる社会実験の内容を紹介した。昆明は、中国で最初に BRT を導入した都市として知られるが、2012 年には廃止されており、現地ヒアリングによりその経緯を明らかにした。アフリカでは、多くの大都市で公営バスが衰退している。今回は、モザンビークの首都マプトについての現況の概略を紹介した。以上のほか、プロジェクトの研究会で何度か話題としてとりあげた MaaS、オンデマンドサービス、シェアリング、自動運転という用語の理解と、途上国での捉え方を整理した。

キーワード：途上国、公共交通、街路空間、新技術

Keywords: Developing countries, Urban public transportation, Street space, New technology